

第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会

「第 1 回競技運営専門委員会」の開催結果について

1 日 時

平成 30 年 3 月 19 日 (月) 14:00～15:30

2 場 所

長野市「長野県スポーツ会館」

3 構成団体及び出席者

- (1) 構成団体 県体育協会、県障がい者スポーツ協会、競技関係団体 等 (19 名)
- (2) 出席者 本人出席:13 名、代理出席:4 名 計 17 名

4 委員会概要

(1) 委員長・副委員長の報告

ア 委員長 県教育委員会事務局 内山スポーツ課長

イ 副委員長 (公財)県体育協会 丸山専務理事

(2) 報告事項

ア 国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の概要について

イ 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催準備経過について

ウ 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催に向けたスケジュールについて

エ 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会の設立と決定事項について

オ 国民体育大会デモンストレーションスポーツ・公開競技及び全国障害者スポーツ大会オープン競技の実施状況について

(3) 審議事項

ア 競技運営専門委員会の主な審議事項のスケジュールの承認

イ 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成の承認

(別紙)

「競技役員の現状、審判員養成に関する考え方について(競技団体からの発言)」

【長野陸上競技協会】

記録会レベルの普通の大会であれば、200名弱で運営できている。全中開催により、審判能力はかなり高くなったが、高齢化は避けられないので、9年後に向けては心配である。

来年度からは高体連が中心になり、高校3年生に審判取得をできる機会を設け、若手審判員の養成をはじめるとの予定である。

【長野県水泳連盟】

県内の有資格者数200名。常時競技会に来てくれるのは60名、声を掛けてきてくれるのは80名。本当に必要なのは120名である。

毎年、講習会等を開いて、新規の役員を入れていくわけであるが毎年20名程度が競技役員として誕生している、がなかなか定着しない。4年の一度の更新で忘れてしまう等がある。今後の課題である。

【長野県サッカー協会】

国体に向けて、協会のなかの競技運営委員会があり、そこを中心に養成をしている。10年後にカテゴリーが絞られていくこともあり、国体に向けてカテゴリーが絞られた形で養成をしている。競技役員についてはプロに関わる委員、サッカー協会のなかの委員、両立で、100人体制ぐらいで今のところ、進めている。審判は、プロのチームに対応できる者、下はU-12の小学生年代まで含めて、人数的には1000人近い登録者がいる。

【長野県ソフトボール協会】

53年のやまびこ国体時には、審判委員数は2400名。現在は1100名。高齢化により、実際にできるのは、半数の500名程度。9年後の国体時はその半数ぐらいかと思う。いま、毎年30名～40名の新しい審判員取得の受講者がいる。この人たちに上手にやめないように、各自治体で出てくれるような仕組みを作って、9年後の国体には人数を集めたいと考えている。

【長野県車椅子バスケットボール協会】

車椅子バスケット今、現在は、9年後もできる審判は2名程度しかいない。年齢が高くなってしまった。

審判講習会も開いているが、なかなか障害者スポーツの特殊性もあり、規則的にも普通のバスケットとも違うし、見方も違うし、難しい面もある。なかなかバスケットボール協会のなかでも、車椅子バスケットボールの審判になってくれるという方が少ないのが現状である。

この国体を契機に、松本バスケットボール協会が中心になってくれているが、長野県全体のバスケットボール協会の方に声をかけて、審判の講習を進めて、審判募集をかけるというふうに進んでいるので、期待している。